

Bobath Information Course

in Osaka kaisei Hospital

平成 21年5月16日(土), 17日(日)、大阪回生リハビリテーション研究会主催で、『整形外科疾患に対するボバースアプローチ』をテーマにインフォメーションコースを開催致しました。

大変お忙しい中、ボバース記念病院から、ボバース国際インストラクターの土井鋭二郎先生にお越し頂き、ご教授頂きました。

整形外科疾患を対象としたインフォメーションコースでしたが、患者様にもご協力頂き、講師 土井先生のデモンストレーションによる治療場面を見学させて頂きました。患者様のより Active な反応を引き出し大胆かつ緻密な治療展開がとても印象的でした。

実技では 1日目に姿勢筋緊張・姿勢運動コントロール・Core Stability、2日目に骨格筋・関節拘縮についての評価と治療実技を練習しました。受講生は8グループに分かれて土井先生、アシスタントの先生方にそれぞれご指導頂きました。

質疑応答も活発で土井先生はじめ、アシスタントの先生方には基礎から教えて頂き、大変充実した2日間となりました。

【講義風景】



【評価・治療のデモンストレーション風景】



【実技風景】



土井鋭二郎先生、アシスタントの先生方、ご協力頂きました患者様、全国各地から御参加くださいました受講生の皆様、本当に有難うございました。

<アンケート集計>

① 一番興味をもてたこと

- 姿勢筋緊張による脊柱のアライメント変化
- 生活歴と姿勢筋緊張の関係性について
- 整形外科疾患に対しての神経系の関与の考え方
- 循環-疼痛の発生機序-姿勢運動コントロールへの観点
- 短縮や痛みが生じるメカニズム

② 疑問に思ったこと

- 急性炎症・慢性炎症での考え方の相違点について
- 治療効果の持続性について
- 高齢者に対する Core Stability の治療法と効果
- 脊柱の分節的なアライメントコントロール
- 疼痛が強い患者様へのアプローチ方法

③ 難しく感じたところ

(講義内容)

- 姿勢筋緊張の評価の仕方
- 神経科学と臨床との結びつき
- 体幹の解剖生理と Core Stability
- 痛みの神経生理

(実技内容)

- ハンドリングにおける誘導と反応のみかた
- 評価と治療、代償動作や短縮の見つけ方
- Core Stability の促通方法・刺激の与え方

④ 感想

- 整形・脳血管疾患等に関わらず、人を評価する大切さを感じました。
- その他の整形疾患(脊髄疾患など痙性の著明な方やシビレ、感覚障害重度)に対するアプローチも教えてもらいたい。
- 局所の治療に集中しすぎて、全身的な姿勢筋緊張やADLを評価できていなかったことに気付けた。
- 患者様を「個人」として捉えることの重要性を再認識できた。
- 高齢者の方を対象にリハビリを実施することが多く、様々な疾患を併発されている方の治療に悩むことがあるため、今後も講習会を開催してほしい。